



公益社団法人日本山岳ガイド協会

〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町6番9号 丸藤ビル201号

TEL: 03-3358-9806 FAX: 03-3358-9780

e-mail: office@jfmga.com

令和3年5月7日

コロナ対策プロジェクトチーム医療班からのお願い（2）

公益社団法人日本山岳ガイド協会
特別委員会コロナ対策プロジェクトチーム医療班

皆様へ新型コロナウイルスに対する行動指針をお伝えしてから、一年が経過しました。幸い、登山中に目立ったクラスターが発生したということは報告されませんでした。これも、皆様が日々の業務の中で適切な感染対策をとって頂いたことの賜物だと思えます。本当にこの一年、コロナ対策のための新しい行動様式に適應して頂き、ありがとうございました。

さて、1年経てばなんとかなると不確かな期待を持ちつつ、当初は業務の自粛をお願いし、その後段階的に業務の拡大を行ってききましたが、今まさに我々には新たに変異株の感染拡大という脅威にさらされています。度重なる緊急事態宣言を経てもなお、医療供給体制はいまだかつてなく逼迫し、一部の地域で破綻しています。都市部では、新型コロナウイルス感染患者が入院できずに自宅待機を余儀なくされ、そのまま死亡されるという、従来は起こり得なかったような事例も散見されるようになりました。また、外傷や急病などといった、通常の（コロナ感染以外の）救急疾患についても、受け入れ先が見つからず、搬送に時間を要する事例が頻発するようになっております。

今現在国内で感染拡大が確認されている変異株は、従来型よりも感染力が高いことが知られています。従来通りの感染対策をもってしても感染したという事例も報告されているため、3密を避けられないような状況（例えば、テント、山小屋、交通機関、各種施設など）や、マスクを外す飲食シーンにおいては、一層の注意を行ってください。感染性の高い変異株においても感染の伝播の特徴は第一に飛沫感染であり、お互いがマスクを正しく着用することが感染対策の基本となります。

従来型のウイルスは、ある種の既往症や高齢などが重症化リスクとなり、実際重症化例には70代以上の方が目立ちました。しかし、現在感染拡大しているイギリス型の変異株においては、40代～50代の重症患者が急増しています。これまで自分は（罹患しても）大丈夫、と思っていた方も、全く安心できる状況ではありません。

また、症状が出てから重症化するまでの期間もかなり短くなっています。発熱などの症状が出て、2・3日のうちに人工呼吸を要するような重篤な呼吸不全に陥る方が増えています。登山中に発症して、山中で急激に悪化するようなケースが生じるかもしれないという認識を、計画や実際の行動に反映させてください。

また、感染が拡大している地域では、通常の救急医療体制も脆弱になっています。そういった地域でのプランはエリアを変更する、リスクの高い山行はなるべく控えるなど、検討頂けると幸いです。

混乱する行政、逼迫する医療供給体制、ワクチン確保と接種の遅れなど、様々な要因が新型コロナウイルス感染症の流行期間延長につながっていますが、現時点では、ガイド業務の休業をお願いし、相応の補償を行うということにはなっていません。いま一度、コロナウイルスについて正しく知った上で正しく恐れることはもとより、感染しない・させないために一層の行動指針の遵守をお願い申し上げます。

最後に、現状においては最大の切り札であると位置づけられている、ワクチンの接種が始まっています。医療従事者・75才以上の高齢者から順次拡大予定であり、やがてガイドの方々への接種も始まることで

しょう。様々な報告から、現行の日本で承認されているワクチンは、接種することに伴うリスクよりもメリットの方がはるかに大きいと思われます。実際のところ、JMGA ファーストエイド委員会に所属する医師は全員が接種に積極的な意見であることを申し添えます。

コロナ対策 PT 医療班

浅井 悌
伊藤 岳